

# そうだ、きさいち植物園に行こう！

Let's go to Kisaichi Botanical Garden



9月 10月



## バショウ

- 中国原産のバショウ科
- 日本では中部以南の暖地で観賞用に栽培
- バナナの仲間。花はクリーム色で6～7cmの長さになる

9月 10月



## ナンバンギセル

- ハマウツボ科の一年草
- 花は淡紫色で長さ3～3.5cm
- 語源はたばこのパイプに似るところから。オモイグサとも言われ、万葉集にも詠まれる

9月 10月



## カゴノキ

- クスノキ科の高さ15m位になる常緑高木
- 花は黄色味を帯びる
- 語源は淡紫黒色の樹皮がはがれると、白い鹿の子模様になることから

9月 10月



## トチカガミ

- トチカガミ科の多年草
- 葉は径5～6cm、円形で3枚の花弁の白い花を咲かせる
- 語源は丸く光沢のある葉がスッポン(=トチ)の甲羅に見えることから

※気象状況により開花時期は前後します。現在の開花状況は植物園までお問い合わせください。

## トピックス

### コーラ、ガム、香水…生活に身近な、熱帯有用植物

植物園の入口左手に、熱帯有用植物のエリアがあります。現在100種を超える植物を、有用性の種別で「果物」「野菜」「香料」「庭木」等およそ七つのテーマで展示しています。例えば、「果物」は、コーラ飲料の元となったヒメコラノキや、チューインガムの原料となるサポジラを植栽。「野菜」は、熱帯アフリカ起源のゴマやアスパラガスの仲間のヤナギバテンモンドウ、「香料」は、香水に利用されるイランイランノキ等……。他にも由来を知ると身近に感じられる有用植物をたくさん見ることができます。当園は、自然な状態で観察していただくため観賞用の温室は使用せず、夏の期間に管理温室から屋外へ植栽する「植え出し」を行っています。植物は5月中旬に植え出された後3～4か月間成長を続け、9月が見頃となります。残暑厳しい時期ですが、生き生きと育っている熱帯有用植物を観察しにぜひご来園ください。



熱帯有用植物エリア



植え出し直後



温室内での管理

### 大阪市立大学附属植物園(愛称:きさいち植物園)

- ☎ 891-2059 ● 交野市私市2000(私市駅徒歩6分) ● HP <https://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/botan/>
- 開園時間 9:30～16:30(入園は16:00まで) ● 休園日 月曜日(祝休日の場合は開園)
- 入園料 大人350円/中学生以下無料 ● 駐車料 普通車500円/マイクロ1,000円
- ※65歳以上の交野市民は「植物園メイト」に登録すると入園料が無料になります。



いつかは指定登録されたい

# 文化財子備軍

古墳とは、約1,300年～1,700前に作られた土を盛り上げた「墳丘」を持つお墓のことです。交野には35基の古墳があり、交野車塚古墳群の東車塚古墳と副葬品等は府指定、倉治古墳群の副葬品は市指定の文化財ですが、指定登録されていないものでも大昔の人々の歴史・文化を伝える貴重な文化財です。今回は指定登録されていない古墳の中から興味深いものを紹介します。

## 銅塚古墳

竜王山の山腹にある森古墳群の中の古墳で、交野では最古級とみられています。森古墳群は、昭和55年(1980)に岩船小の児童が古墳に備えられていた土器や埴輪のかけらを拾ったことをきっかけに存在が明らかになりました。発掘調査では、葺石におおわれた立派な古墳の一部が確認されました。



## 妙見山古墳

妙見東にあった古墳です。工事で壊される前に、四條畷高校地歴クラブの生徒が偶然発見したおかげで調査されました。現在は宅地開発により失われていますが、調査記録と副葬品の勾玉や管玉は今も残っています。



## 塚穴古墳

寺の住吉神社の裏の山中にある寺古墳群の中の古墳です。個人地のため普段立ち入りはできませんが、墳丘と横穴式石室という石積みの埋葬施設が良好な状態で残されています。



## 清水谷古墳

東倉治にある古墳で、地元住民がみかんの苗を植えようとして土を掘ったところ、石室の一部が見つかり発見された古墳です。塚穴古墳と同じく横穴式石室の古墳で、形がきれいに残っています。



市内のコンビニの数は二十数件、古墳はコンビニより多く35基もあります。今回紹介した古墳のように何気ない日常から発見されるものも多く、今発見されている古墳はもちろん、これから発見される古墳の指定登録にも大いに期待が持てます。